



諏訪台中だより

令和6年11月1日
荒川区立諏訪台中学校
令和6年度
学校だより 第7号

「歌う諏訪台」「心躍る諏訪台」

校長 出井 玲子

【学校教育目標】

- ・豊かな心を持ち、思いやりのある
- ・生徒自ら考え、進んで学ぶ生徒
- ・心身ともに健康でたくましい生徒
- ・地域とともに学び、地域を愛する生徒

『文化祭 自分の限界 突破せり』シリーズ中学生の俳句より

先月10月7日(月)～12日(土)は学校公開週間でした。15日(火)～18日(金)は、あいさつ運動でした。ご参観、ご協力いただいた保護者の皆様、ご来賓の皆様、お忙しい中ありがとうございました。

そして、26日(土)は、第27回文化祭(舞台の部 合唱の部)でした。10月上旬、中間考査が終わった頃から、各学級対抗の合唱コンクール、文化部や英語科による舞台発表の本格的な練習が始まりました。決して長い準備期間ではなかった中で、一步一步練習を重ねてきました。

今回の文化祭のスローガンは「寧楽～想いは舞台を超えて～」でした。「寧楽」とは、安寧な平和の都を意味します。秩序立った穏やかな安寧な居所で心を合わせて力を発揮する姿を示します。ただ、現実はその甘くはなく、きっと本番まで紆余曲折、様々な壁があったと思います。実は、本番10日位前のある日、合唱練習をする教室の前を通った私は、いささかの不安に駆られていました。しかし、そこを乗り越えて、当日はよくぞ見事に歌い上げた合唱コンクール、心躍る舞台発表がありました。成し遂げた諏訪台中生にただただ感動しました。「歌う諏訪台」「心躍る諏訪台」を果たしました。スローガンにある～想いは舞台を超えて～の通り、舞台を離れて会場いっぱい、さらに、文化祭が終わった後も一人一人の心に想いが伝わっているのではないかと思います。講師で特別審査員の田中安茂先生が、合唱のご指導の際に「練習を重ねると最後は音楽に乗る」とおっしゃっていました。当日は緊張しながらも「音楽に乗る」姿をたくさん見ることができました。

舞台の部について少ししたためます。

割れないシャボン玉づくりなどに挑戦した自然科学部。本番の成功に向けて練習を重ねた実験は大成功で幻想的な世界を作り上げました。英語科の発表は複数の言語が話せる(セミ リンガル)ことで母語が定まりにくい悩みを流ちょうな英語で話しました。夏休みの釜石への被災地訪問について、状況と助け合って避難した現地の方々の雄姿などを発表した防災部。「私たちにできること、今やらなければならないこと」を実際に視察したからこそその言葉で発表しました。防災部の活動とコラボした演劇部の発表。演目「一日前…」は、熱い演技で防災について考えるきっかけになりました。パフォーマンスアートを行った美術部。楽しみながら精巧なアートを見せてくれました。最後は、様々な場面で発表を重ねる吹奏楽部。重厚な響き、軽妙な響きで皆を音楽の世界に引き込みました。アンコールの声も掛かり、会場を一つにしてくれました。

今回の成果、キーワードは、積み重ねです。練習を重ねることで心が重なり、心が重なることで自信と実力が付く。そのことが、「自分の限界 突破せり」につながるのだということを、私自身が生徒たちから学びました。きっと、この経験はこれからの様々な取組に生きてくると思いますし、生かして欲しいと思います。

お越しいただきましたご来賓の皆様、ご協力見守りをいただきました保護者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

